

令和5年度第5回秦野市行財政調査会 会議記録

1 開催日時	令和5年11月27日(月)午後3時から午後4時49分まで	
2 開催場所	秦野市役所本庁舎3階3A会議室	
3 出席者	委員	坂野委員、小林委員、茅野委員、大屋委員、田村委員、 足立(昌)委員、西尾委員、其田委員、松原委員(欠席)、 足立(文)委員
	事務局	政策部長、行政経営課長、同課課長代理及び担当
	関係課	【総合政策課】 総合政策課長、同課課長代理及び担当 【農業振興課】 農業振興課長及び同課課長代理 【はだの魅力づくり推進課】 はだの魅力づくり推進課長、同課課長代理及び担当
4 議題	(1) デジタル田園都市国家構想交付金(地方創生関連)の効果検証について (2) 第2期秦野市まち・ひと・しごと創生総合戦略(秦野市総合計画前期基本計画リーディングプロジェクト)に係る外部評価について	
5 配付資料	<p>次第</p> <p>資料1-1 デジタル田園都市国家構想交付金(地方創生関連)効果検証「本物の魅力」が見つかる表丹沢～「都心から近い山岳・里山アクティビティの聖地」に向けた表丹沢ツーリズムの確立～</p> <p>資料1-2 「本物の魅力」が見つかる表丹沢～「都心から近い山岳・里山アクティビティの聖地」に向けた表丹沢ツーリズムの確立～について</p> <p>資料1-3 デジタル田園都市国家構想交付金(地方創生関連)効果検証(農と人をつなぐ地域活動拠点魅力向上プロジェクト)</p> <p>資料1-4 農と人をつなぐ地域活動拠点魅力向上プロジェクトについて</p> <p>資料1-5 農と人をつなぐ地域活動拠点魅力向上プロジェクト(写真)</p> <p>資料2 第2期秦野市まち・ひと・しごと創生総合戦略(総合計画前期基本計画リーディングプロジェクト)令和4(2022)年度評価報告書</p>	

<p>15 : 00～</p>	<p>◆開会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料の確認 ・出席委員数（9名／10名）及び会議成立の報告 <p>◆はだの魅力づくり推進課、農業振興課、総合政策課自己紹介</p> <p>◆坂野会長あいさつ （略）</p> <p>◆議事(1) デジタル田園都市国家構想交付金（地方創生関連）の効果検証について</p>
<p>15 : 05～</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・事務局から議事(1)に係る説明（資料1－1から1－5まで）
<p>15 : 25～</p> <p>委 員</p>	<p>（主な質疑）</p> <p>意見：表丹沢、表尾根、大倉尾根、塔ノ岳は、首都圏におけるハイキング、登山のエントリーコースで多くの方が来られる場所である。さらに魅力を付け、山岳地域に限らず、市内の商工業、観光業へリンクをさせていくことが重要である。そして、それが交流人口増、定住人口増へとつながっていくと、なお良いと思う。</p> <p>OMOTANのブランディングに関しては、大変素晴らしい取組であると思っており、引き続き、御努力していただきたいと思うが、その中で、課題としては、これをムーブメントと捉えたとき、どう民間団体を巻き込んだ取組にしていくか、ということである。</p> <p>税金を投入している間だけ賑やかで、それが終わってしまったら閑散としてしまうということはあってはならないことで、そのような意味ではツーリズムとして、サイクリング事業者などとコラボレーションをしていることは大変重要な試みであり、定着することを期待している。これらのほか、一層、民間事業者を巻き込んだ取組に取り組んでいただきたいと思う。</p> <p>そのような意味では昨年度に表尾根の新大日小屋の撤去が市の御尽力もあった中で、民間団体の手で成し遂げられたということは大変意義深い取組であったと思う。引き続きこのような取組が行われるよう、民間を巻き込んだムーブメントとして盛り上げていただきたい。</p> <p>苦言を申し上げると、冒頭申し上げたとおり、表丹沢はエントリーコースであり、ハイキングや登山を始めたばかりの方々が多く利用される。このため、トイレには十分に気を遣っていただきたいと思う。他のトイレがきれいになってきている中、三ノ塔だけ冬期は閉鎖しており、三ノ塔のトイレが閉鎖となると、次のトイレまで少し長い距離</p>

となるため、工夫をお願いできればと思う。

現在、表丹沢周辺には水も電気もいないトイレが複数ある。三ノ塔にもう一つトイレを作るとは難しいのかもしれないが、エントリーコースであることを考えると、せめて簡易トイレの設置などを御検討いただきたい。

加えて、小田急グループでは、現在、戸川、バス、温泉という内容のパッケージを発売しているが、そのコースを回り終えたとき、是非、秦野駅前で食事をして帰るということにつながるような仕掛けや工夫をしていただきたい。地域によっては、バスを降りるとチラシが置いてあるという地域もある中、表丹沢にはそのようなことはほとんどなく、どうぞ新宿まで帰ってくださいというような状況である。

このムーブメントを是非、飲食にもつなげていただき、表丹沢の資源を最大限に有効活用した取組となるよう努めていただきたい。

はだの魅力づくり推進課

答：数々の御意見をいただいた中で、ツーリズムに関して、その一つの形として、民間の方々にお集まりいただき、情報を共有した中で、民間の方々が御自身でメニューを組んで実施するというを進めている。表丹沢に点在するものをつなげることが重要で、一つの拠点に訪れ、そのまま帰ってしまうことのないよう、民間を含めた横の連携が重要であると思う。現在、そのような視点で会議を立ち上げ、連携についての協議を進めているところである。

またトイレに関しては、御指摘のとおり尾根沿いにあるトイレはきれいになってきており、課題はあるものの、比較的登山者には好評であると考えている。引き続き、担当課とともにしっかりと取り組んでいきたいと思う。

新大日茶屋の解体の件については、私も片付けに参加させていただいたが、参加されている人は自発的に取り組まれており、このような取組が色々なところで行われると良いと思う。

秦野駅前での食事の件については、登山は多くの方が楽しめる一方、なかなか観光消費には結び付かない娯楽でもあると捉えている。このため、駅のほか、これから整備されるサービスエリアやスマートインターチェンジの活用も検討し、是非、観光消費にも結び付く取組にしなければならないと考えている。はだの魅力づくり推進課は、市内4駅周辺の賑わい創造も所管していることから、市内4駅周辺の飲食店が賑わうよう、取り組んでいきたいと思う。

会

長

意見：ムーブメントとして広がってきている中、それがストーリーとして見え、さらにはそのストーリーが見える形で情報発信されると、なお良いと思う。

委

員

問：表丹沢ツーリズムの取組に関して、KPI の達成率は2か年の成果として十分な成果であると思う。ファミリー層、女性グループをターゲットとしている中、民間事業者をバックアップし、どのようなところを狙い、それぞれの層を取り込んでいくのか、が重要である。

その点について、どのような評価軸で今後の事業展開を考えているのか、お聞かせいただきたい。

ふるさと伝承館の取組に関して、KPI の達成率は非常に素晴らしい状況で、このまましっかりと事業展開していただければと思う。

その中で来場者アンケートにおいて、直売所や施設が使いづらいという声があり、また登録農家者数の拡充が難しいということであったが、この点の改善策をどのように考えているのか、お聞かせいただきたい。特に、売上を増やすための今後の評価軸や表丹沢の取組との連携について、お聞かせいただきたい。

はだの魅力づくり推進課

答：秦野は比較的体力を要する遊びが提供できるものの、今後、取り込んでいきたいファミリー層や女性グループのことを考えたとき、森林セラピーなどは女性に人気であり、そのようなところからターゲット層の取り込みに取り組みでいきたいと思う。

また、表丹沢野外活動センターではキャンプができるほか、近隣でも有名なボスコオートキャンプベースを運営している諸戸コーポレーション株式会社が指定管理者であるため、そのような点を生かして、ファミリー層の惹きつけに努めているところである。

加えて、令和4年度に自転車のイベントを試行的に開催したが、ヤビツ峠はロードバイクの聖地として、たくさんの方が遠くから来られる場所である。一方、その地域ではスピードを出した自転車に対する地元民からの懸念もあり、地域との共存という観点を含め、取組を進めているところである。

そのほか、電動アシスト自転車が比較的認知されている中、先日、民間の取組で、駅前において電動アシストのマウンテンバイクを使った取組が行われ、非常に好評だったと聞いている。そのような取組が進めば、山間部も容易に回れるイベントが開催できるのではないかと思っている。

食に関しては、そばや観光農園のほか、お金を落としていただくという視点を含め、ブランディングを進めていきたいと思う。

最後に、蓑毛に大日堂という歴史のあるお寺があり、遠くから訪れる方もいられるほか、保存をする会からはもっと PR してほしいという声もあった。

今回申し上げたものは、比較的全世代に渡るものと捉えているものの、それがどうしても点になっており、線として、面としてのつながりがないというのが課題と認識している。それらの課題を解いていく

委

員

ことが、それぞれの御指摘に対する解消につながると思っている。
意見：今のお話のとおり、一つひとつ魅力のある素晴らしい事業をやっている、E-bike をアウトドアライフと連携させていくことも素晴らしいと思う。表丹沢野外活動センターがどのような役回りになるのか、気軽に野外活動ができる地域・まちというブランド作りも重要だと思う。そのように複合的な効果の中で、成果を出されると、このあとさらに拡張性のある取組になると思う。今の形から少しロジックを考えていただけると、さらにブランディングが進むと思う。

農 業 振 興 課

答：田原ふるさと公園は、開設から20年以上が経過し、これまで地域の方々に利用していただいている中、高齢化や施設の老朽化が見え始めているところである。正にこの田原ふるさと公園をどうしていくか、ということを考えなければならない状況の中、今回、この交付金を活用し、運営者の方々の要望を踏まえ、整備したもので、結果として、施設運営において、また地域としてモチベーションがすごく上がったという印象を持っている。

農産物の数が少ないという指摘があった中、これまで以上に農産物を出していただいたり、これまで農産物を出していなかった方が出していただけるようになったりと、今回の取組による効果も出てきている。

そのような中でたくさんの方が来ていただき、相乗効果になっているため、この契機を逃さず、取組を進めていきたいと思う。

田原ふるさと公園の今後に関しては、これから地域に入り、地域の皆さんと意見交換のうえ、取組を進めていきたいと考えている。この公園周辺は、田園地帯が広がっていて、魅力溢れる場所であることから、施設のほか、周辺環境を含め、魅力づくり構想の拠点としての位置付けも意識しながら、取組を進めていきたいと思う。

委

員

意見：ふるさと伝承館については、85%以上来客数が戻ってきていて、来年辺りには以前の状態まで戻るのではないかと思う。その中で、売上を増やすために、今、お話のあったような取組を展開していただきたい。例えば、しいたけを直売所で購入し、それをしいたけの事業と連携させることや木工製品と林業を連携させること、さらには、市内にはたくさんのおそば屋さんがあると思うので、おそば屋さんの売上が上がるような取組を期待する。伝承館の売上が上がる中で、おそば屋さんの売上も上がってくると、また別の視点での評価や捉え方も出来るようになると思う。上手くいっている状況であるため、是非、さらなる取組の推進を図っていただきたい。

会

長

意見：秦野のそばというブランディングをしていけば、東雲のそばを食べた方が他の市内のそば屋にも行くというストーリーが描けると思うので、是非、そうした視点でも御検討いただきたい。

委

員

意見：初めに資料1-1に関して、2か年に渡り、約1,000万円の交付金が使われている中、市民としては、OMOTANを前面に押し出したということは、分かりやすいという観点から非常に素晴らしい取組であると思う。

先ほど、点という話があったが、民間の我々が動いてもどうしても点となり、また継続性のない取組になってしまう。そのような中、OMOTANを立ち上げ、継続性を持たせ、点を線に、さらには面に、という取組であることを踏まえると、この交付金が果たす意義は大きいと思う。

一方で、KPIを見ると、もう少し深いKPIが設定できたのではないかと思う。素晴らしいことをやっているのに、説得力に欠けるKPIであると思う。例えば、令和3年度の表丹沢ツーリズムに対する期待値の割合が50%でよかったのか、もっと高いところを見ていただいた方が良かったのではないかと思う。

令和3年度以降、担当を新設したほか、積極的に取組を進めていると思うが、そのような中で、民間事業者が秦野で商売をしていて良かったと思われることをゴールに設定し、そして、それらを通じて、たくさんの市外の方が秦野に来てくれ、さらには関係人口の増加につながると良いと思う。

そういった意味では、その舵を取るOMOTANというのは、もっともつと深いところを目指していただきたい。

田原ふるさと公園に関しては、個人的な利用として、市外から仕事関係の方が来られた場合、ランチに利用する機会が多い。ほかのおそば屋さんもたくさんあるが、田原ふるさと公園の良いところは、働いている方が地元の方で、地元の方がつくる漬物などは都会の方には響くと思うので、是非、そのようなところは維持していただきたい。

加えて、この田原ふるさと公園は、施設のほか、田園風景も素晴らしく、この風景は秦野に唯一残されたものであると思うし、またこのことは都会の方にも響く要素であると思う。このため、周辺の土地が宅地開発されてしまうことのないよう、配慮していただいたうえで、今後の在り方の検討を進めていただきたい。

はだの魅力づくり推進課

答：令和3年度の目標値である50%については、このときはまだまだ表丹沢ツーリズムの始まりで、2人に1人が期待していただければという思いから設定したものである。

令和4年度は、目標値を高めたものの、実績はそれ以上となり、今となっては令和3年度の目標値の設定が、適切ではなかったかもしれないと感じる。継続して取組を進め、Instagramや表丹沢総合ホームページの認知を高めることにより、ブランディングは進んでいくと考えている。

	<p>知名度の高いブランドは、マークで認知されていると思うので、まずは OMOTAN のマークを売り込んでいく取組が重要であると思っている。</p> <p>地域の事業を磨きながら、ブランディングも進めていく中で、少なくとも OMOTAN のマークはどんどん広めていきたいと考えている。</p> <p>例えば、秦野駅や渋沢駅の改札を出たときに OMOTAN のマークがあることで、秦野は OMOTAN のまちで、OMOTAN とは何かというところからで良いと思っている。その疑問から Instagram や表丹沢総合ホームページを見てもらい、こんなことをやっているのかと認識を深めてもらえれば良いと思う。</p> <p>あのマークを見た人が、登山、ハイキング、食べ物などを連想できることが大切で、そしてその連想は個々で違って良いと思っている。そのようなことを通して、少しずつ OMOTAN を浸透させていき、さらには新しい魅力の発信をすることが大切だと思っている。短期間でできることではないが、継続して取組を進めていくことが大切で、たくさんの人に OMOTAN の魅力を知ってもらうことが重要であると考えている。新東名高速道路が全開通すれば、西側からの玄関口として、西側から入ってきたときに、OMOTAN のマークから、ここは OMOTAN のまちと思っていただけるような取組を進めていければと思っている。</p>
農 業 振 興 課	<p>答：田原ふるさと公園は、田園風景のほか、富士山も見えるなど、その周辺環境も強みであると考えている。宅地開発については、法律上の網が掛かっているところであるが、引き続き、これらの環境は守っていききたいと考えている。</p>
会 長	<p>意見：OMOTAN を前面に出すのは良いことだが、秦野には水、森林セラピー、そば等とたくさんの魅力がある。</p> <p>それらがうまく戦略的に組み合わせることが大切で、かつ、ストーリーがあるとなお良いと思う。</p> <p>伝承館について、Web ページの口コミを見ると、そばと風景についての書き込みがあり、やはりそこは来場者に響いていると感じる。</p> <p>その点については、さらにアピールしていくことが重要だと思う。</p>
委 員	<p>意見：以前、宝石などで有名な企業の会長とお仕事をする機会があったが、その中でブランドを維持するためにどのようなことをしているのか話を伺ったことがある。その返答として、ブランディングは人づくり、お客さんづくりということであった。</p> <p>資源をどんなに磨いても資源は資源で、お客さんを磨くとうまくいくという話であったので、参考にさせていただきたい。</p>
委 員	<p>意見：いずれも成功裏の事業と評価する。その中で、ハイカーの方を除き、それぞれの施設の回遊性、移動の難しさが課題であると思う。</p> <p>先日、土曜日の午前8時過ぎに小田原に向かうに当たり、小田急線</p>

はだの魅力づくり推進課

を利用したが、秦野まで座れないような状況であった。かなり準備をされている方からそうでない方まで、幅広い層の方が秦野で降りていかれた。

電車で来た方がサービスエリアまで行ってみたいという方もいると思う。そのようなところをケアすることは、民間や近隣自治体との広がりにもつながると思う。

答：秦野市内の4駅合わせての乗降客数は、新百合ヶ丘駅など大きな駅に匹敵するほどの数になると小田急の方から聞いたことがある。

そのような中、それらの方々は市民なのか、市外の方なのかにより対応は異なると思うが、秦野に来てもらった中で、御指摘のとおり交通手段は弱いと認識している。

この点、表丹沢魅力づくり構想において、解決の糸口を探っているところであるため、御意見をいただきながら、進めていきたいと思う。

委員

問：表丹沢をどのように整理していくのがもっとも適当だと思っているか。

はだの魅力づくり推進課

答：秦野のブランディングということを考えたとき、秦野の水というのは最も強調すべきものだと考える。日本一という称号をもらった水のロゴマークはOMOTAN以前に出しているロゴマークである。

OMOTANのロゴマークにおいても、水は中心的な要素で、このマークの水色は名水の水色を模したものであり、それぞれがバラバラにブランディングされることのないよう、しっかりと意識し、一体となって進めていく必要があると思っている。

委員

意見：今回の事業において、KPIを大幅に上回っているということはそれぞれ評価すべきことだと思う。そのような中、それぞれの事業において、本当の意味での効果は、結果として、誰がどうされることなのか、中・長期的な視点を持ち、事業を進めていただくことが重要である。そのようなことを考えたとき、KPIはこの設定が妥当だったのかということは考えなければいけないと思うが、単年度又は2年度の交付金事業ということを考えると、やむを得ないところもあると思う。

委員

意見：表丹沢ツーリズムについて、KPIに表丹沢ツーリズムに対する期待値とコラボレーションする民間事業者数を設定しているが、ブランディングを評価する指標になっているのか疑問である。期待値については、イベント参加者に対するアンケート結果であり、対象とする範囲が狭く、またコラボレーションの事業者数は、どちらかと言うとアウトプット指標に近いと感じる。アウトカムを評価する指標とするのであれば、コラボレーションすることで、どれだけイベントの魅力向上につながったかを測る指標を設定すべきだったと思う。

田原ふるさと公園については、コロナ禍前の状況に回復したものと評価する。ただし、KPIの目標が令和2年度の数値となっており、本来

はだの魅力づくり推進課	<p>であれば、コロナ禍前の平成30年度の数値を目標として、評価すべきであったと思う。</p>
委員	<p>答：KPIに係る目標値と指標についての御指摘と認識したが、現在進めている表丹沢魅力づくり構想では、50の様々な取組に関して、それぞれに目標値を設定し、取り組んでいる。それぞれの取組において、目標が達成できるように進めていきたいと思う。</p>
委員	<p>意見：新たなターゲットとして、ファミリー層や女性グループを取り込むことを目指しているが、普段、登山をしない層を引き込むことは非常に難しいことである。経営においても新規開拓は非常に難しいことである。</p> <p>そのような中、指標の設定において、例えば、既に登山を経験されている方向けの指標とするなど、少し尖った指標でも良いと思う。何でもかんでも全員にやってほしい、誰にも受け入れられることは難しいと思うので、そのような考え方も含めて、広く検討していただけると良いと思う。</p>
会長	<p>意見：Instagramを見ていて感じたことは、Instagramの方がWebページより面白いということで、それは実際に経験した人が発信しているからであると思う。</p> <p>Webページは森林セラピーなども、ページ上、分かりにくい。どの項目にアクセス数が多いのか等の分析を進めるとともに、見ていて楽しいWebページになるとより良いと思う。</p>
	<p>◇デジタル田園都市国家構想交付金の効果検証の決定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・表丹沢ツーリズムに係る事業は、有効であったと評価する。 ・農と人をつなぐプロジェクトに係る事業は、有効であったと評価する。
	<p>◆はだの魅力づくり推進課及び農業振興課退室</p>
	<p>◆議事(2) 第2期秦野市まち・ひと・しごと創生総合戦略(秦野市総合計画前期基本計画リーディングプロジェクト)に係る外部評価について</p>
16:18～	<p>・事務局から議事(2)に係る説明(資料2)</p>
16:40～	<p>(主な質疑)</p>
委員	<p>問：52ページの「コロナ禍を超えて」は「コロナ禍を越えて」が妥当ではないか。</p>
総合政策課	<p>答：御指摘のとおり修正する。</p>

16 : 49

◆事務局からの連絡事項

◆閉会